

●調査レポート

埼玉県内主要産業動向調査(産業天気図) - 2015年1~3月期 -

調査対象: 県内企業 574 社
回答企業: 278 社(回答率 48.4%)

調査方法: アンケート方式 (1月下旬 郵送回収)
業種別内訳: 製造業 166 社 非製造業 112 社

概況

今回の産業天気図は、一部で晴れ間がのぞくものの、曇り勝ちの天気となっている。原油価格下落に伴い燃料費が低減する一方、住宅投資などで反動減の影響が残るほか、円安等に伴う原材料等のコスト増が背景にあるためと見られる。

製造業では、円安等に伴う原材料等価格の高止まりにより収益が圧迫され、化学・プラスチック・ゴム製品は「曇り一部雨」へ後退している。一方、一般機械器具は金属加工機械や動力伝動装置等では、円安の恩恵を受け輸出が増加するなど、「曇り」へ好転している。

非製造業では、天気の変化した業種はなかったが、住宅建設では反動減の影響などから低調で、小売では、自動車販売店などでは反動減の影響が窺われるが、量販店を中心に堅調であるなど、業況は持ち直し基調にある。

先行きについては、晴れ間が消えるものの、雨が小降りとなり、曇り空が広がる見通しである。

製造業では、飲・食料品は雇用・所得環境の改善に伴う外食向けや、海外販路を開拓する動きが出始めていることなどが寄与するほか、原油価格下落等に伴い燃料費の低下などから「曇り」へ、印刷・同関連業は、学校向けなどによる受注増加とともに、燃料費等のコストが低減し「曇り一部雨」へ、各々持ち直す見通しである。一方、精密機械は、光学機器を除き、景気の先行き不透明感から受注減少を見込む先も多く、「曇り」へ後退する見通しである。

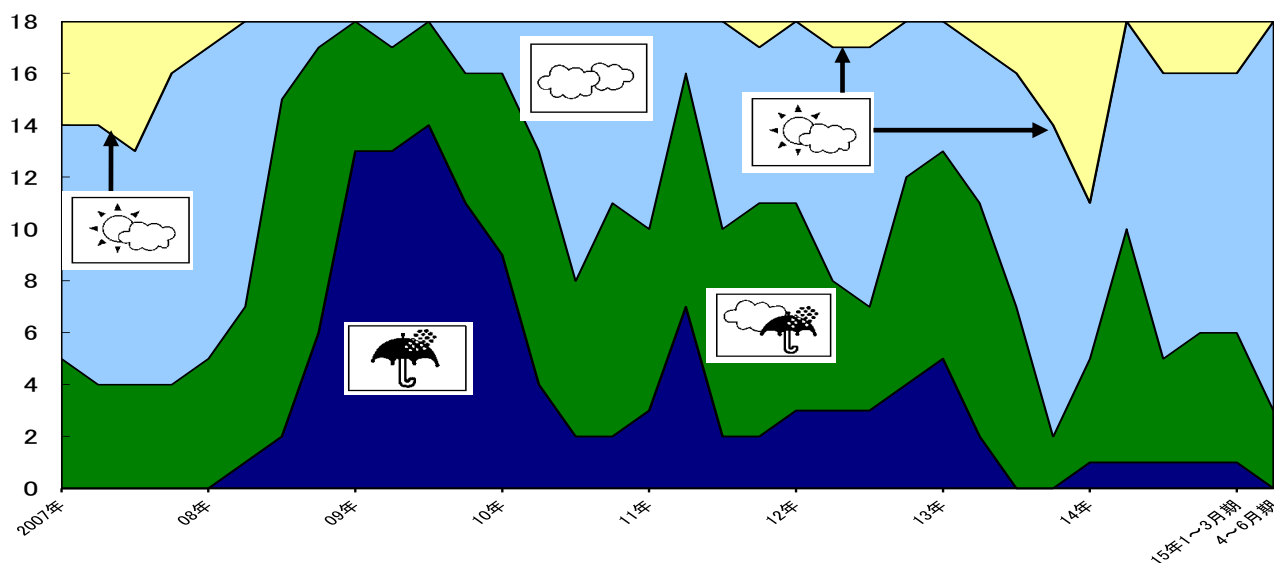
また、非製造業では、住宅建設が住宅エコポイントの復活などの寄与が期待され「曇り」へ持ち直す見通しである。一方、一般建設は公共工事の大幅な増加が期待できないほか、建設資材価格や人件費の高止まりから収益が圧迫され、「曇り」へ後退する見通しである。

天気図別の業種数

区分	晴	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨
2014年 10~12月期(前回)	0	2	10	5	1
2015年 1~3月期(今回)	0	2	10	5	1
2015年 4~6月期(先行き)	0	0	15	3	0

(業種数)

産業天気図



(注) 天気マークと BSI 基準の目安

天気マーク	晴	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨
BSI	100 以下~50 以上	50 未満~20 以上	20 未満~-20 超	-20 以下~-50 超	-50 以下~-100 以上